



T&D保険グループ

平成 18 年 11 月 16 日

各 位

株式会社 T & D ホールディングス
 (コード番号 8795 東証・大証第一部)
 太 陽 生 命 保 険 株 式 会 社
 大 同 生 命 保 険 株 式 会 社
 T & D フィナンシャル生命保険株式会社

「平成 19 年 3 月期 中間決算」のお知らせ

T & D 保険グループの平成 19 年 3 月期 中間期 (平成 18 年 4 月 1 日～平成 18 年 9 月 30 日) の業績について以下のとおりお知らせいたします。各社の数値等については、次ページ以降をご参照ください。

主要業績

- 生命保険会社 3 社合算の契約業績 (個人保険・個人年金保険) は、
 新契約高は、3 兆 4, 6 9 9 億円、前年同期から 6. 8 % の減少、
 解約失効高は、2 兆 6, 5 3 7 億円、前年同期から 1. 6 % の増加、
 保有契約高は、6 0 兆 2, 6 8 6 億円、前年同期から 0. 6 % の増加となりました。
- T & D ホールディングス連結の保険料等収入は、8, 8 1 0 億円、前年同期から 8. 8 % の減少となりました。

損益関係 (T & D ホールディングス連結)

経常収益は 1 兆 1, 1 0 6 億円、前年同期から 8. 5 % の減少、
 経常利益は 8 3 2 億円、前年同期から 3 2. 4 % の増加、
 中間純利益は 2 7 8 億円、前年同期から 4 7. 8 % の増加となりました。
 経常利益と中間純利益が増加したのは、主に利息及び配当金等収入が増加したことにより、基礎利益が増加したためです。

以 上

【お問合せ先】

株式会社 T & D ホールディングス	広 報 部	熊 谷 寛	TEL 03-3434-9181
太 陽 生 命 保 険 株 式 会 社	広 報 室	長 嶺 秀 一	TEL 03-3434-4775
大 同 生 命 保 険 株 式 会 社	広 報 課	市 村 秀 史	TEL 03-3434-9190
T & D フィナンシャル生命保険株式会社	広 報 課	大 石 孝 之	TEL 03-3434-9182

[契約業績（個人保険・個人年金保険）]

(単位：億円)

	3社合算		太陽生命		大同生命		T&Dフィナンシャル生命	
	当中間 会計期間	前年同期比	当中間 会計期間	前年同期比	当中間 会計期間	前年同期比	当中間 会計期間	前年同期比
新契約高	34,699	6.8%減	11,765	20.3%減	22,392	4.4%増	540	47.5%減
解約失効高 (解約失効率)	26,537	1.6%増	7,494 (4.26%)	7.8%減 0.53ポイント低下	17,654 (4.41%)	12.1%増 0.44ポイント上昇	1,388 (5.21%)	37.9%減 2.46ポイント低下
保有契約高	602,686	0.6%増	177,492	2.4%増	399,901	0.5%増	25,292	9.1%減
新契約年換算保険料	670	4.4%減	187	11.9%減	420	1.0%増	62	13.6%減
うち医療保障・ 生前給付保障等	88	4.5%減	69	0.1%減	18	5.4%減	0	100.0%減
保有契約年換算保険料	14,479	1.1%減	6,797	4.6%減	6,901	1.7%増	780	6.9%増
うち医療保障・ 生前給付保障等	1,784	0.8%増	1,115	3.8%増	598	2.1%減	71	15.7%減

(注) 1. 新契約高には転換による純増加高を含んでおります。

2. 解約失効率は、年換算しておりません。

3. 保有契約高の前年度末比は、3社合算が0.0%増、太陽生命が0.9%増、大同生命が0.0%減、T&Dフィナンシャル生命が5.1%減です。

< 3社単純合算 >

- ・新契約高は、3兆4,699億円、前年同期から6.8%減少しました。
- ・解約失効高は、2兆6,537億円、前年同期から1.6%増加しました。
- ・保有契約高は、60兆2,686億円となり、前年同期から0.6%増加しました。

○太陽生命

- ・新契約高は、主力商品である「保険組曲」及び「けんこう」シリーズの新規契約の減少により、1兆1,765億円、前年同期から20.3%の減少。
- ・解約失効高は、7,494億円、前年同期から7.8%の減少。
解約失効率は、4.26%、前年同期から0.53ポイントの低下。これは主に解約失効の改善に取り組んだため。
- ・保有契約高は、17兆7,492億円、前年同期から4,155億円、2.4%の増加。
うち個人保険の保有契約高は、13兆8,328億円、前年同期から4.8%の増加。
新契約高は減少したものの、解約失効高が減少しており、保有契約高は引き続き増加している。
- ・保有契約年換算保険料は6,797億円、前年同期から4.6%の減少。
うち医療保障・生前給付保障等は、1,115億円、前年同期から3.8%の増加。

○大同生命

- ・新契約高は、主力の個人定期保険が好調に推移し、2兆2,392億円、前年同期から4.4%の増加。
- ・解約失効高は、1兆7,654億円、前年同期から12.1%の増加。
解約失効率は、4.41%、前年同期から0.44ポイントの上昇。
これは主にキャッシュ・バリュー型定期保険の解約が増加したため。
- ・保有契約高は、39兆9,901億円、前年同期から2,090億円、0.5%の増加。
うち主力の個人定期保険の保有契約高は、35兆9,972億円、前年同期から3,644億円、1.0%の増加、前年度末からは0.2%の増加。
- ・保有契約年換算保険料は6,901億円、前年同期から1.7%の増加。

○T&Dフィナンシャル生命

- ・新契約高は、540億円、前年同期から47.5%の減少。これは主に前年の営業職員チャネルのグループ内再編に伴う個人保険販売停止ならびに金融機関代理店チャネルでの変額個人年金保険の新商品投入が遅れたため。
- ・解約失効高は、1,388億円、前年同期から37.9%の減少。
解約失効率は、5.21%、前年同期から2.46ポイントの低下。
- ・保有契約高は、2兆5,292億円、前年同期から2,528億円、9.1%の減少。
ただし、変額個人年金保険の保有契約高は4,924億円、前年同期から1,390億円、39.3%の増加、前年度末からは7.2%の増加。
- ・保有契約年換算保険料は780億円、前年同期から6.9%の増加。

〔損益関係〕

(単位：億円)

	T&Dホールディングス連結		太陽生命		大同生命		T&Dフィナンシャル生命	
	当中間連結 会計期間	前年同期比	当中間 会計期間	前年同期比	当中間 会計期間	前年同期比	当中間 会計期間	前年同期比
経常収益	11,106	8.5%減	5,186	9.9%減	5,244	6.1%減	913	38.7%減
うち保険料等収入	8,810	8.8%減	3,633	14.2%減	4,320	0.8%減	856	20.4%減
うち資産運用収益	1,959	6.7%減	1,163	28.5%増	792	4.9%減	26	93.1%減
経常費用	10,273	10.7%減	4,789	13.5%減	4,703	8.3%減	981	36.7%減
うち保険金等支払金	8,156	13.8%減	3,865	17.7%減	3,812	11.9%減	478	10.2%増
うち資産運用費用	725	66.7%増	347	44.6%増	254	37.3%増	137	547.5%増
経常利益(△損失)	832	32.4%増	397	77.9%増	540	19.5%増	△67	11.1%増
特別利益	4	33.5%増	0	13.3%減	4	9.5%増	0	865.9%増
特別損失	146	10.8%増	49	26.1%減	88	106.5%増	9	57.7%減
契約者配当準備金繰入額	206	0.3%減	72	8.5%増	127	4.1%減	6	10.5%減
税引前中間純利益(△損失)	484	65.3%増	275	206.9%増	329	17.2%増	△83	7.2%減
法人税及び住民税等	206	97.2%増	104	147.2%増	134	63.8%増	△24	5.8%減
中間純利益(△損失)	278	47.8%増	171	259.8%増	195	2.0%減	△58	7.8%減

- (注) 1. 法人税及び住民税等は、法人税等調整額を含んでおります。
2. 保険料等収入の3社単純合算は8,810億円です。

＜T&Dホールディングス連結＞

- ・ 経常収益は、1兆1,106億円、前年同期から8.5%減少しました。
- ・ 経常利益は、832億円、前年同期から32.4%増加しました。
- ・ 中間純利益は、278億円、前年同期から47.8%増加しました。

○太陽生命

- ・ 保険料等収入は、主に団体年金保険の収入保険料の減少により、3,633億円、前年同期から14.2%の減少。
- ・ 資産運用収益は、利息及び配当金等収入の増加及び有価証券売却益の増加などにより、1,163億円、前年同期から28.5%の増加。
- ・ 保険金等支払金は、満期保険金の支払い金額の減少などにより、3,865億円、前年同期から17.7%の減少。
- ・ 資産運用費用は、主に有価証券売却損の増加により、347億円、前年同期から44.6%の増加。
- ・ 経常利益は、397億円、前年同期から77.9%の増加。
- ・ 特別損失は、主に減損損失の減少により、49億円、前年同期から26.1%の減少。
- ・ 中間純利益は、171億円、前年同期から259.8%の増加。

○大同生命

- ・ 保険料等収入は、4,320億円、前年同期から0.8%の減少。ただし、主力の個人定期保険の収入保険料は、2,728億円、前年同期から3.8%の増加。
- ・ 資産運用収益は、利息及び配当金等収入は増加したものの、特別勘定資産運用益の減少などにより792億円、前年同期から4.9%の減少。
- ・ 保険金等支払金は、主に団体年金保険のその他返戻金の減少により、3,812億円、前年同期から11.9%の減少。
- ・ 資産運用費用は、主に有価証券売却損の増加により、254億円、前年同期から37.3%の増加。
- ・ 経常利益は、540億円、前年同期から19.5%の増加。
- ・ 特別損失は、主に価格変動準備金繰入額の増加により88億円、前年同期から106.5%の増加。
- ・ 中間純利益は、195億円、前年同期から2.0%の減少。

○T&Dフィナンシャル生命

- ・ 保険料等収入は、主に変額個人年金保険の新契約減少により、856億円、前年同期から20.4%の減少。
- ・ 資産運用収益は、主に特別勘定資産運用益の減少により26億円、前年同期から93.1%の減少。
- ・ 保険金等支払金は、主に解約返戻金の増加により、478億円、前年同期から10.2%の増加。
- ・ 資産運用費用は、主に特別勘定資産運用損の増加により、137億円、前年同期から547.5%の増加。
- ・ 経常損失は、67億円、前年同期から6億円の損失拡大。これは主に変額個人年金保険の最低保証リスクに対する責任準備金繰入額が増加したため。
- ・ 中間純損失は、58億円、前年同期から4億円の改善。

【その他の指標等】

(単位：億円)

	3社合算		太陽生命		大同生命		T&Dフィナンシャル生命	
	当中間 会計期間	前年同期比	当中間 会計期間	前年同期比	当中間 会計期間	前年同期比	当中間 会計期間	前年同期比
基礎利益	842	51.9%増	277	69.9%増	597	36.8%増	△32	28.3%減
逆ざや額	199	203減	126	92減	52	111減	20	0増

(単位：億円)

	3社合算		太陽生命		大同生命		T&Dフィナンシャル生命	
	当中間 会計期間末	前年度末 比較増減	当中間 会計期間末	前年度末 比較増減	当中間 会計期間末	前年度末 比較増減	当中間 会計期間末	前年度末 比較増減
ソルベンシー・マージン比率			1,016.6%	28.6ポイント低下	1,199.1%	55.3ポイント低下	1,583.9%	363.8ポイント低下
実質純資産	17,515	1,329減	6,862	713減	10,019	604減	633	12減
有価証券差損益(一般勘定)	8,774	1,755減	3,794	871減	4,986	891減	△6	7増
うち公社債	39	164増	△147	84増	199	64増	△12	14増
うち株式	5,964	1,508減	3,507	981減	2,455	526減	1	0減
うち外国証券	525	194増	383	137増	142	57増	△0	0減
うちその他の証券	1,967	542減	68	121減	1,894	414減	3	6減
うち金銭の信託	299	77減	—	—	299	77減	—	—
土地等の差損益	△64	31増	△37	8増	△27	22増	—	—

- (注) 1. 有価証券差損益については、有価証券のうち時価のあるものを記載しています。また、金銭の信託内で保有する有価証券のうち、売買目的有価証券以外のものの差損益を含めて記載しています。
2. 土地等の差損益については、太陽生命は鑑定評価額および公示価格等、大同生命は原則として鑑定評価額(重要性の低い物件等については公示価格)をもとに算出しています。
3. E V計算上の修正純資産は、3社合算が1兆1,408億円(前年度末比916億円減)、太陽生命が4,724億円(同424億円減)、大同生命が6,233億円(同438億円減)、T&Dフィナンシャル生命が451億円(同53億円減)です。なお、修正純資産は、以下の算式により計算しております。
- 修正純資産=純資産の部計(評価・換算差額等を除く)+負債中の内部留保(価格変動準備金、危険準備金、配当準備金中の未割当額)+一般貸倒引当金(税引後)+有価証券等(円建債券を除く、デリバティブ取引を含む)の含み損益(税引後)+土地の含み損益(税引後)-負債中の内部留保に係る税効果額

＜3社単純合算＞

- ・基礎利益は、842億円となり、前年同期から51.9%増加しました。
- ・逆ざや額は、199億円となり、前年同期から203億円減少しました。
- ・実質純資産は、1兆7,515億円となり、前年度末から1,329億円減少しました。
- ・有価証券差損益は、8,774億円となり、前年度末から1,755億円減少しました。

○太陽生命

- ・基礎利益は、277億円、前年同期から69.9%の増加。
逆ざや額は、126億円、前年同期から92億円の減少。
これらは主に利息及び配当金等収入が増加したため。
- ・ソルベンシー・マージン比率は、1,016.6%、前年度末から28.6ポイントの低下。
実質純資産は、6,862億円、前年度末から713億円の減少。
有価証券差損益は、3,794億円、前年度末から871億円の減少。
これらは主に、株価下落によるもの。

○大同生命

- ・基礎利益は、597億円、前年同期から36.8%の増加。
逆ざや額は、52億円となり、前年同期から111億円の減少。
これらは主に利息及び配当金等収入が増加したため。
- ・ソルベンシー・マージン比率は、1,199.1%、前年度末から55.3ポイントの低下。
実質純資産は、1兆19億円、前年度末から604億円の減少。
有価証券差損益は、4,986億円、前年度末から891億円の減少。
これらは主に株価下落によるもの。

○T&Dフィナンシャル生命

- ・基礎利益は、△32億円、前年同期から28.3%の減少。
- ・逆ざや額は、20億円、前年同期とほぼ同水準。
- ・ソルベンシー・マージン比率は、主に最低保証リスク相当額の増加により、1,583.9%、前年度末から363.8ポイントの低下。
- ・実質純資産は、633億円、前年度末から12億円の減少。
- ・有価証券差損益は、△6億円。

[平成 19 年 3 月期通期業績予想]

平成 18 年 5 月 17 日に公表いたしました業績予想からの修正はありません。
参考として、同日公表の業績予想を再掲いたします。

○T&Dホールディングス

(連結)

(単位：億円)

	平成 18 年 3 月期実績	平成 19 年 3 月期予想	増減率 (%)
経常収益	24,442	22,800	6.7%減
経常利益	1,368	1,050	23.2%減
当期純利益	355	260	26.8%減

(単体)

(単位：億円)

	平成 18 年 3 月期実績	平成 19 年 3 月期予想	増減率 (%)
営業収益	136	160	17.6%増
経常利益	109	130	19.3%増
当期純利益	109	130	19.3%増

1 株当たり年間配当金予想は 55 円です。

なお、上記の前提となる生命保険会社 3 社 (単体) の平成 19 年 3 月期の通期業績予想は次のとおりです。

(単位：億円)

	太陽生命保険 株式会社	大同生命保険 株式会社	T & Dフィナンシャル生命 保険株式会社
経常収益	9,400 (12.7%減)	10,100 (4.9%減)	3,100 (0.7%減)
経常利益	300 (36.0%減)	860 (13.5%減)	△140 (14.8%増)
当期純利益	40 (36.5%減)	320 (17.9%減)	△120 (5.3%増)

(注) 括弧内は平成 18 年 3 月期からの増減率です。

※実際の業績は、今後様々な要因によって、上記業績予想と大きく異なることがあります。

以 上

(参考) 生命保険会社3社(単体)の平成19年3月期見通し

(単位:億円)

	3社合算	太陽生命保険 株式会社	大同生命保険 株式会社	T&Dフィナンシャル生命 保険株式会社
基礎利益	1,180 (7.2%減)	380 (0.3%減)	880 (8.4%減)	△80 (14.3%増)
保険料等収入	19,400 (2.0%増)	7,700 (6.4%減)	8,800 (1.0%増)	2,900 (39.4%増)
逆ざや額	730 (1.1%増)	370 (3.9%減)	320 (9.2%増)	40 (7.0%減)
新契約高	69,400 (4.9%減)	22,700 (20.0%減)	44,300 (3.2%増)	2,400 (47.5%増)
保有契約高	605,000 (0.4%増)	177,500 (0.9%増)	403,800 (0.9%増)	23,700 (11.1%減)
解約失効率(%)	—	8.5 (1.19ポイント低下)	7.7 (前期並み)	12.7 (1.67ポイント低下)

- (注) 1. 括弧内は平成18年3月期からの増減率です。
 2. 新契約高、保有契約高及び解約失効率は、個人保険と個人年金保険の合計です。また、新契約高には転換による純増加を含みます。
 3. 太陽生命の新契約高・保有契約高・解約失効率について、当中間期の契約業績を踏まえ見通しの変更を行っております。(新契約高:30,000億円→22,700億円、保有契約高:184,800億円→177,500億円、解約失効率:9.5%→8.5%)

※実際の業績は、今後様々な要因によって、上記見通しと大きく異なることがあります。